

S1-1

**ボトムアップシステムとしての科学研究費補助金制度の現状と将来**  
**The Present Bottom-up System of Grant-in-Aid for Scientific Research and Its Future**

梅田 真郷<sup>1,2</sup> (<sup>1</sup>京都大学 化学研究所, <sup>2</sup>JSPS)

学術研究の発展には、各々の研究者の自主性にまかせた自由な発想に基づく研究が必要不可欠であり、そのような研究を支援する基幹的な研究費が科学研究費補助金（科研費）である。科研費は研究者の創意に基づいて研究テーマを設定する、いわゆる「ボトムアップ型」のピアレビュー（研究者による審査）による研究支援システムであり、我が国の競争的研究資金の約半分を占める。これまで科研費の審査制度には種々の問題が指摘されてきたが、そのファンディングエージェンシーである日本学術振興会では学術システム研究センターの設置を含む様々な改革がなされている。科研費制度を公正で透明性の高い我が国独自の優れた研究支援システムとして育て上げるためには、サイエンスコミュニティの協力はもとより、若い研究者の自由な発想と積極的な参画も必要である。ここでは、科学研究費補助金制度の現状と今後について議論したい。